



# アド連便り

第17号

平成30年9月1日

発行：全日本青少年育成アドバイザー連合会

編集：広報委員会



平成30年度  
総会  
研究集会  
宮城県松島

## 総会と研究集会を開催

平成30年度全日本青少年育成アドバイザー連合会の総会と研究集会が、平成30年6月24日(日)～25日(月)にかけて、宮城県松島の「パレス松洲」において開催されました。総会では、会長挨拶で始まり、平成29年度事業報告(案)と決算(案)、平成30年度事業計画(案)と予算(案)が、原案通り可決承認されました。また、規約改正もあり、本年度より会費が、各県単位で5,000円となり今後の事業展開がやりやすくなりました。来年は広島県で開催されます。



## 平成31年度は広島県で。

平成30年度総会・研究集会の閉会式において、次年度の総会のご案内がありました。

日時：平成31年6月23日(日)～24日(月)

場所：ツネイシしまなみビレッジ(瀬戸内体験型宿泊施設)

<http://www.tsuneishi-sv.com>

福山市沼隈町中山南26-1 (ぬまくまちょう なかさんな)

TEL 084-988-0003

FAX:084-988-1241

# 総会の様子

平成30年6月24日



伊藤会長 歓迎の挨拶



# 事例発表 北海道 石井さん



「八軒中央すまいるネットの取り組み」

北海道青少年育成アドバイザー連絡協議会

副会長 石井 光郎

平成14年度に公立学校の学校週5日制がスタート。子どもの生活環境が大幅に変わるのだから我々の活動も旧態依然ではだめだと、アドとして意見表明し、地域の緩やかなネットワーク「八軒中央すまいるネット」を開始。毎月の会議、月刊紙の発行を続けたほか、子どもの体験活動を推奨すべく、全国アド連が提起している「子どもが伸びるチャンスを活かそう」を地域の育成目標として採用し、地域内の様々な団体がこれを意識して実践しています。アドバイザーとして何ができるのか？

一人でできないので、ネットワークを立ち上げた。

- ①スタートは顔合わせ……年12回
- ②心合わせ（地域に発信（広報誌・通信の発行）
- ③力合わせ（地域の人々とのつながりを深めた。）

子供が自発的に活動するために働きかけるアドバイスにした。しかし、成果が上がってこなかった。

子供が伸びるチャンスを作ろう、生かそうを目標に進めた。常に、反省・企画を繰り返していった。

続ければ続けるほど、マンネリ化になり、話し合いの形式や手法を工夫し続けた。

効果のないときに、地域を責めたり、参加しない人を責めたりしたが、実際は自分たちの心や表現の仕方に課題があることにも気づいた。

同じ考えや思いを持った仲間を増やしていくことが発展につながるということで、地域の中で、アドバイザー研修会を3年前から始めている。今後も深みのある活動を続けていきたい。

# 事例発表 岩手県 大村さん



「こどもたちの真の幸せ（成長）を願いながら」

岩手県 大村 千恵

『子どもたちの真の幸せ(成長)を願いながら』と題して、貴重な時間をいただき事例発表させていただきました。

## 1 はじめに

私がこの活動に取り組むきっかけとなった経緯をお話ししました。息子が中学生の時、学校は荒れていて当時つばっていた子どもたちと真正面から向き合い続けたら、その子たちは自分を取り戻していった。この経験から、子どもは誰かに寄り添ってもらうことで絶望の淵から這い上げられることを学びました。

## 2 大切にしてきた理念

子どもの自立を促すキーワードは『参画』。特に思春期の子は、大人に指示されたり管理されることを嫌がります。彼らが求める大人は、自分を認めてくれる人。子ども自身が持っている能力を信じ、その力を最大限伸ばしてあげることには徹してきました。

一方、今の子どもたちの気になるところは、自己中心的で他者との関係がうまくつくれなかったり打たれ弱いところ。これらの子どもたちに共通して見えてくる人間像は、孤独で孤立しているということ。

## 3 一人ぼっちをつくらない運動

課題解決に向けて、子どもの居場所づくりに取り組みました。子どもを迎えるに当たり心掛けたのは、まずはありのままを受け入れること、見守る大人は空気のような存在として、いるかないか分からないような、しかしながら無くてはならないものとして。

## 4 今まで出会ってきた、居場所を求めて彷徨う子どもたちの事例を紹介しました

暗いトンネルを自力で抜け出した少女／水沢にもいた!? ホームレス中学生／プチ家出を繰り返す少女／エアガンをもってやってきた少年／「スタッフはどの死に方がいい？」／障害を抱えながら自分探しを続ける青年／つらい“いじめ”を克服した少年少女たち／「この世から消えたい…」／わが身を守るための悲しいウソ

## 5 子どもの居場所の意味、そして意義

場と人の力を借りて子どもたちは成長し、切磋琢磨しながら大人になる準備や訓練をします。また、問題が起こったときが成長のときと捉え、可能な限り子どもたち同士で考え合い解決の糸口を見つけることを支援していきます。時間と根気が入りますが、子どもたち自らが“気づいてくれる”ことを信じて待つことを大切にしています。

## 6 おわりに

最終的には、子どもたちの成長に最も影響を及ぼすのは家庭、家族、親子関係に行きつきます。常にその課題に向き合い、できる限りのプログラムに意識的にその要素を取り入れています。「心を伝える奥州の成人式」では、サプライズで渡された親からの手紙を受け取り、愛されて今があることを改めて実感します。中高生と乳幼児が触れ合う「ちびっ子ひろば」は、近未来の親育て支援事業として、育てられている時代に育てることを学ぶ貴重な機会になっています。

# 記念講演

## 記念講演



「非行少年を生まない社会づくり」宮城県警察本部  
生活安全部少年課 少年相談指導員 石原 智子氏

子どもを取り巻く環境、家庭の現状確認を確認し、子供達には、「地域の大人たちが見守っている。」という  
ことを伝え続けていきたい。と取り組んでいる。

非行少年を生まないようにするために・・・

その1 少年を見守る体制 ……規範意識を高めるための活動

非行防止教室など、防犯教室などを実施していく。

大学生のボランティアの人たちで手伝いでして行く活動。

「わたしたちのまちはわたしたちでまもりまします」という標語を作り、少人数教室でもしている。  
たくさんの立場の人たちのアイデアを出し会う。

「まけない」

ま・・・まんびきしない

け・・・ケイタイは気を付ける

な・・・？

い・・・いじめをしない

震災には負けない。などの曲を大学生が作った。みんなで活動を支援し、見守っていく。活動をする。  
様々なサークル活動を繰り返している。スクールサポーターの活動もしている。

その2 非行の恐れのある少年には積極的にかかわっていく活動

立ち直り支援活動

近年非行少年は減っている。今は成人が多くなっている。それでも、立ち直り支援をしているのは、  
非行少年は再犯を繰り返している。

親のせい、地域のせいとばかり言うてはられない。様々な理由を持つ中で、その子にとって何が居場所になるかを考えてのかがわりをししてみようとしている。そのひとつとして、平成23年から取り組んでいる。

実践例 学習支援・・・深夜徘徊の生徒A・B（無視され・食事も居場所もない）

\*立ち直り支援活動

少年指導員の方とともに居場所づくりをした。再犯はなくなった。

子供の心を大人に向けさせることからスタート・・・計算ドリル

簡単なことから始め、褒められる経験のなかった生徒たちを誉め伸ばした。

学ぶだけでなく、食も共にしながら、雑談をする。会話は傾聴し、話させる。

居場所となるようなかかわりをし続け、その後生徒は、「絶対裏切らないよ」という言葉を発するようになる。その信頼関係が出せたことが非行防止の一つになっていた。

生徒の気持ちに寄り添い理解してあげられる親子になれるように声をかけたりするようにかかわった。そして、長い期間がかわることの大切さに気付いた。

「大切なもの」の曲の少女の話。

活動内容は別紙「少年非行の概況」に掲載してある。

参考にしながらたくさんの活躍を願っています。

# 総会・研究集会に参加して

今回、初めて参加いただいた皆さんに、感想をいただきました。

## 岩手県 岡元世子さん



初めて全国の方々が集まる総会・研究集会に参加させていただき緊張いたしました。みなさまの篤い思いと行動に感動いたしました。多くのことを学ばせていただきました。とくに専門委員会で隣りに座られた方のお話の内容とその雰囲気は癒されました。

誰かの話を心を込めて傾聴することの大切さは、今後青少年に向き合う際の参考にしたいと思いました。昨年度、娘もアドバイザーの養成講座を受講させていただきましたので、だれかのお役に立てるような活動ができることを願っております。



## 山形県 田中千鶴子さん

私が可能な限り研究集会に参加したいと思う訳は「人やことばとの出会いが、自身に大きな影響を与えてくれると感じているからです。湖の水がいつも美しいのは、見えないところに水の出入りがあるからで、溜池や防火用水が濁って水腐れを起こすのは、最初に蓄えたものだけで出入りがないから。人もこれと同じ、今ある知識や経験だけに頼ることなく、学んだことを還元し、出と入りを意識し流れを作りだすための努力を惜しまないこと。「初心忘るべからず」であり「花は心種は態(わざ)」なのです。日頃が大切であり、その時々に出会った人や言葉が、今の私の態(たい)であり態(わざ)の土台です。



## 総務委員会 報告 石井光郎



総務委員会は10県19名のアドが出席し開催。最初に自己紹介を兼ね、各県のアド組織の運営について情報交換。毎月例会、研修会を開催(東京)、総会、近畿ブロックの研修会開催(京都)、県内を5ブロックに分け大都市中心の運営を改革(広島)、個人の活動から育成者を発掘する活動へ(富山)、総会、毎月役員会、年1回研修会開催、会員多く5ブロックに分ける(愛知)、養成講座で会員増、総会懇親会+研修会に改善(北海道)、活動する会員数を調査、研修は実技型へ(岐阜)。

特徴的な活動として、メッセージ大会(兵庫)、アウトドアチャレンジ大会に参加(岩手)、ボランティアの会に参加(京都)、子どもまつりを高校生が企画(広島)、問題を抱える子どもを児童クラブ運営に参加させる(岩手)、子どもフェスティバルのアドコーナー(愛知)、そば打ち研修会(宮城)などの方向があったが、大半はアド個人の活動が中心と推察。最後に荒井氏(兵庫)から、これからの活動の領域として防災支援ボランティアは有益である旨の発言があった。なお、基本法、法人化に関わる意見は皆無であった。

## 後継者養成委員会 報告 宇野 晃

1 平成29年度の青少年育成アドバイザー養成事業は既アドバイザーの皆様や関係各位の努力により昨年(37名)以上の44名の新受講者があり、既アドバイザー22名を加え66名の受講がありました。

特徴として全日本アド連に加盟していない秋田、山形、山梨、長野、奈良、鹿児島各県から受講生があり、少しずつありますが継続開催により全国に広まりつつあります。

4月14日の青少年育成アドバイザー認定委員会で33名の方を新第6期生とし認定をいたしました。今後は新し方々を如何に該当アドバイザー組織に加入し活動してもらうか、また、全日本アド連に加入していない県のアドの皆様へ加入してもらうかです。



こうした事態に対応するため規約改正が行われ3号会員で加入できる道ができましたので加入を呼び掛けていきます。まだ認定手続きのされていない受講者がいますので今後、フォローアップをして全員が認定されるよう働きかけていきます。

平成30年度は、新たな人材の発掘や仲間を広く増やすために「子ども夢基金」からの助成を受け、また、講師陣も少し替えさせていただいて、多くの方が参加しやすい養成講習会を目指します。期日は平成31年2月22日～24日2泊3日で、場所は昨年と同じ東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開講いたします。募集要項を10月中旬頃作成し全国に呼び掛けていきます。

過去の実績では各県、各ブロックで入門コースを開催いただくことで受講者が多くなり、後継者が育っていくという経緯がありますので早めの取組をお願いいたします。

全日本アド連加盟の皆様には総会資料を参考にされ早めの呼びかけを、また、受講目標といたしまして新しい方、既アドバイザー含めて各県4名以上をお願いいたします。参加費は1,7万円を予定しています。

2 アドバイザーテキストを作成します。基本編として、今年度作成しアドバイザー必携の書として刊行します。編集委員会を立ち上げ、予算も計上いたしました。予定は9月末に1,000部発行いたします。

予算不足でありますので1冊1,000円で協力をお願いいたしますので各ブロック、各県で各アドバイザーは必ず1冊を目標といたします。アドバイザー養成事業としての活用については11月理事会で協議いたしますが、入門講座や通信教育のテキストとして活用することも考えています。また、テキストで教える方々の養成も考えています。



1 現状と問題点

(1) 現状と問題点

認知度が低いことから、本会の活動や事業内容を広報し育成活動の発展に図るため、ホームページ、FB、グループメール、Eメールなどを積極的に活用して情報を共有し活動を推進してきた。

ホームページやアド連だよりの活用状況に対する意見

- ホームページ開設県 アド連 岐阜県 鳥取県
- FB活用 アド連 兵庫県
- ホームページに訪問している 19人中7人
- アド連だよりが発行されると会長事務局から配布されるので活用する
- ホームページを開設しても訪問数がわからないので、カウントできるようにしてもらいたい。(カウンター設置し改善済)

(2) 今後の活動に向けて

青少年育成アドバイザーの知名度を広めるために、会員一人一人が広報マンとなりあらゆる機会を活用して広報することが必要

(3) 次年度の活動事例集(案)作成募集に向けて

アドバイザーとして活動している人は少ないことから、地域で個々に青少年の健全育成や支援活動に従事されている人が多いことから、個々に従事している事業の成功例や失敗例などの投稿について意見交換した。

- ホームページに活動事例の基本様式をUPLして投稿してもらおう
- 事務局で投稿された方の個人情報把握保管していただき、問合せなどに対応してもらいたい
- 投稿があるとホームページにUPする。特に、個人情報に配慮してほしい
- 原稿に写真を添付していただくと理解を得やすい

表彰者の皆さん



- |                             |                              |                              |                              |                              |                              |                               |                              |
|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| アド歴<br>愛知県<br>18年<br>鳥越 進さん | アド歴<br>鳥取県<br>23年<br>芳村 恵子さん | アド歴<br>岐阜県<br>20年<br>青山 政美さん | アド歴<br>宮城県<br>50年<br>鈴木 徳子さん | アド歴<br>徳島県<br>14年<br>坪井 静子さん | アド歴<br>富山県<br>35年<br>稲積 重雪さん | アド歴<br>兵庫県<br>24年<br>鳥山 すず代さん | アド歴<br>広島県<br>30年<br>内山 幸光さん |
|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|

おめでとうございます。





皆さん、こんにちは。今年も、早6月下旬、美しい松島の緑が一層色濃くなり、自然も人々も天地の恵みあふれる季節となりました。全国各地から、身銭と貴重な時間を費やして、ご参加いただきました仲間の皆様のご出席を得て、この一年の活動を振り返り反省しながら、新しい30年度の計画・予算を立てる事ができますこと、誠に感謝に耐えません。

さて、未曾有の東日本大震災から、早7年3か月が経過しました。3月の震災特別番組を見ながら、あの津波に流される家や車の様子を、昨日のことにように思い出しました。死者・行方不明者18,434人。災害関連死を含めると22,081人に上ったと伝えていました。私は、テレビに涙しながら「頑張ってください」としか言えず、映像に向かって合掌して、犠牲になられた皆様のご冥福を心からお祈りし、残された皆様のご加護をお願いした処でございます。被災者の皆様には、一日も早い復興を願っております。

その仙台の地、松島で、記念すべき第22回全日本アド連総会・研究集会以開催するにあたり、昨年からの多忙な中に時間を割いて、ご準備頂きました宮城県の仲間の皆さん、資料が多く、ご苦勞をお掛けしましたこと、深くお詫びを申し上げますと共に、今日までご尽力いただきました事に、心から感謝を申し上げます。

また、公務ご多用の中、日ごろから私たちの青少年育成運動に、ご理解とご支援を頂いております青少年のための宮城県民会議会長の三浦文夫様のご臨席を得て、この大会が開催できますこと、感激に耐えず、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

早いもので、私が会長に就任させていただいて、丸3年が経過し4年目を迎えました。その間、アドの認知度が低い。私たちの立位置が不明確。後継者の養成が急務。活動資金が無い。運動の範囲が広すぎて何をすべきか、焦点が定まらない、など、様々なご意見を頂いて参りました。これに答える為、先ずはマンネリ化した育成運動を見直し、我々が目指すべき「新しい旗」を建てる事。

第2にアド運動が目指すものを再確認して、周囲に理解して頂けるよう自ら行動すること

第3に何と言っても後継者の養成を図ること。

第4に組織の活性化を図るために、情報のパイプを太くして、共有し、切磋琢磨しあうこと。

第5に県民会議と連携して国民運動の再興をはかること

など、私自身の目標を作って、皆様にご支援ご協力をお願いし、共に努力を積み重ねて参りました。

それが、「ありがとう一日100回運動」であり「子どもが伸びるチャンスを活かす運動」であります。

国民会議の結成宣言を引用して、我らの基本目標を確認し、青少年を取り巻く社会や青少年の現状を認識しようとしたのもこの為であります。

また、本当に受講生が集まってくれるか、充実した内容で実施できるか。赤字は出ないか？不安を一杯抱えながら、養成講座を継続実施し、各県でも入門講座を開催して頂きました。

内閣府の子ども・若者白書に育成ボランティア団体として掲載して頂いたのも、HPを開設し、会員バッチや名刺をつくり、紹介パンフレットやシール・のぼり旗をつくり、活用をお願いしたのもこの為であります。

更に、法律制定要望などともんでもないと厳しいご批判をいただきながらも「青少年健全育成基本法」の制定要望運動に取り組んだのも、この為であります。

中々、躍進しているほどの実感はありませんが、確実に前進しつつある姿は見えてきたと考えております。

この大会で、これら一連の運動を振り返りながら、新しい30年度に備えてご審議を頂きます。私も精魂を込めて、長い時間を掛けて議案を作成し、理事会でもご議論を頂いたつもりであります。どうか、忌憚のないご意見をいただき、より一層青少年育成運動が発展する総会となりますよう、お願いして開会のごあいさつと致します。よろしくお願い致します。